

IRに関する意見(自由回答)

<p>IRは教育事業における喫緊の課題であると承知していますが、学業成績以外の取組みですので、教職員、学生に対して全体的な理解を得ることが未だに難しいように感じております。</p>
<p>I Rデータの公表が学生の学修成果を明確にし、教育内容の充実に繋がり、結果他大学との差別化になるとの前提で取り組んでいます。しかし、情報の公表や教育の質保証など文部科学省から義務づけられた情報公開の数値や時期に影響を受ける部分が多く、学内のデータ集約や分析のマンパワーが分散してしまっているのが残念に思います。</p>
<p>特になし</p>
<p>認証評価対応のための対応という感じで形骸化している感じです。</p>
<p>1) 本アンケートの設問は各大学の事情を勘案したうえで設定されているとは思えません。率直に申し下げて、設問の多くは本学には馴染みませんでした。 2) I Rは収集するデータの質が低いと分析した結果が意味をなしません、他校の活動を見ると分析ばかりに焦点が当たっており、疑問を感じます。 3) 近代の日本は工業化により発展して来ており、その象徴としての日本製品の品質の高さは「カイゼン」に代表される現場での改善活動にあります。一方、I Rは米国から入って来たこともあり、執行部に報告を上げて改善するという、所謂トップダウン形式です。しかし、日本が発展して来た経緯を思うと、現場が主体となる日本式のI Rがあってもよいと感じております。決して、現場に俯瞰してみる力がない訳ではありません。</p>
<p>学生と教職員の支援（すなわち教育の支援）という目的をもって業務にあたれば必ずとやるべきことはわかってくる。それを継続して行うことが大学経営に資することは間違いない。</p>
<p>とくになし</p>
<p>IRを大学にとって意味あるものとするには、どのような分析を行う必要があるのか、その結果が有効に活用されるためのニーズや目的が必要である。また、幅広い部署に関するデータを収集、分析、活用していくためには、統合的なデータベースが必要であり、そのなかに蓄積されたデータを共有して、必要な分析を行っていくようなシステムを構築しようとしているところである。さらに、入学前後の学生の成績などを扱ううえでは、倫理的問題も生じると考えられ、他大学においてどのような手続きをとっているのか知りたいところである。</p>
<p>特にありません。</p>
<p>本学は、これまで専任のIR担当がいなかったことやデータの活用が不十分ということでIR活動を片手間の業務にしない目的で設置されたが、学内のデータ発生源の担当者のデータに関する意識が希薄（日常業務さえ回ればよい）であったり、すでに各部署でデータ集計や経営陣への報告をおこなってきていることもあり、IRにその機能を集約しなくても、実質的なIRができている状況ではあるため、IRを推進してエビデンスのある大学経営をするという形を見せるための組織になっているのが現状です。そのための人材育成プランもないので、長期的にIRを継続していけるかどうかはとても不安である。</p>
<p>IR活動は専門組織のマンパワーでは到底足りないことを鑑みると、いかに学部・研究科をはじめとする各部署の協力が必要であると考えます。また、それぞれの職務上で有する問題意識をリサーチアクションとして持ち寄り、プロジェクト形式で専門組織と協働して実施し、依頼者側のニーズを汲み取りつつ、両者の知見によるデータ分析を行う体制が必要だと考えます。</p>
<p>コロナ禍前には幾つかの研修会に参加し、I R組織及び運営の在り方、ワーキンググループでの意見交換、他大学の現状把握に努めてきましたが、本学（小規模大学）での現状では、補助金獲得ありき、自己点検評価書（エビデンス集含む）ありきでの対応が主となっている感が強く、本来のあるべきI R組織の姿とはかけ離れているような気がしています。他大学の現状、特に本学のような小規模大学での組織編成や運営等はどのような状況なのでしょうかね？</p>
<p>個人的意見：権限と責任が不明確。ただし何を分析するかはIRの自主意思となっている</p>
<p>どのように分析していくことが効果的なのかが不明である。</p>
<p>本学ではPower BI Report Serverを用いて可視化されたIRデータを特定の教職員が閲覧できる運用をしており、現在においても扱うデータによっては閲覧制限を設けているところである。可視化されたIRデータは今後、経営層のみならず、経営企画担当事務職員などより多くのスタッフに活用してもらいたいと思う反面、情報保護の観点から共有できるデータ範囲に限られるという面もある。IRデータの共有と情報保護の観点で他大学ではどのような方針で体制構築されているのか（教学IR、研究IR等の分野ごとの取り扱い方針や可視化データの粒度、システムユーザー範囲等）参考となる情報があればいただきたいです。</p>

<p>IR活動自体は、こうあるべきという答えはなく、それぞれの大学によって様々な機能があるべきと考えます。私立大学改革総合支援事業では加点のためには、画一的なIR機能を備える必要がありますが、それがすべての大学のあるべきIR活動に合致するとはとても思えず、回答のたびに戸惑いを感じています。</p>
<p>IRを全学的に推進することが役割であるものの、大学の意思決定フローがボトムアップ型であるため、本来の役割である「執行部の意思決定に資する情報提供」が非常に難しいことが大きな課題です。執行部に情報を提供してたところで執行部の権限が非常に弱く、単なる情報提供で終わってしまうというもどかしさを感じています。</p>
<p>現在は、委員会は設置しているが、委員会が率先して分析することではなく、それぞれの部署（教務、入試）などで分析を行っているのが現状です。来年度からは、委員会ではないある部署でIR業務も担当する予定です。色々情報を流していただければ幸いです。</p>
<p>問7については、IR部署で扱っている活動についてのみ回答しています。</p>
<p>IRの仕事の範疇が明確でない。教学面から経営面まですべてをカバーするようなIR機能を構築するのは困難と考える。</p>
<p>ICTの専任教員も多く、教員に意欲があるが、大学事務の経験のある職員に限られ、基本的な学生データがどのようなものであるのかもあやふやであるといった状況であることから、分析の前提としたデータの収集は、困難が生じると推察している。それ以外については、開学まもないこともあり、よいスタートを切れるよう、担当委員会で相談を進めている段階である。</p>
<p>膨大なデータから大学が置かれた状況を正確に把握し、その情報を共有し、改善を働きかけることの難しさを痛感している。データ分析などの手法が確立されておらず、専門的な知識も乏しく、試行錯誤の繰り返しである（やろうと思えば分析対象や方法が際限なく広がっていく）。データ環境を整えることの難しさ（各部署が管理するデータの一元管理化、必要な個人情報の利用が制限されるなど）があり、全てのステークホルダーにIRの重要性を理解してもらうこと、当事者意識を持ってもらうことが非常に重要である。</p>
<p>大学教育の質を保証、向上させるためには必要な組織だと思います。</p>
<p>創設者が全てを決めるので、教職員の改革意識が低い。</p>
<p>日頃より大変お世話になっております。東北学院大学齋藤です。教学マネジメントを支える基盤としてIRを進展させる必要がありますが、IRとは結局どこまで継続的な改善を行う意思決定支援をするのか。執行部はある程度の長所を伸ばし、課題を解決する具体的な方策をサジェスチョンまで求めている。IR担当者としては意思決定支援を目的とした、情報収集・分析によるレポートに留めていたが、近年は政策提言まで求められる状況にあることに多少の抵抗感を有している。また、教学マネジメントは当然ながら学内のあらゆる資源を活用するため、教学のみならず研究・経営に関するデータの収集も重要となるが、学校法人が有しているデータを学長のリーダーシップにより収集する権限行使をしにくい状況であり学校教育法と私立学校法によるガバナンスの複層構造が課題になることがある。</p>
<p>とくになし</p>
<p>特になし</p>
<p>問12と問12a～12cの違いが分からなかったため、同一の回答選択肢を入力しています。</p>
<p>色々な考えがあるが、うまくいっている大学はIRが分析のみに留まっていない気がする。分析した人間の方が提案をしやすく、他の人の疑問にも即座に答えられると思う。なので、IRに必要な要素はデータを集約し分析するだけでなく、その分析を活かし、提案できる人材と考える。</p>
<p>管理職も含め、ほとんどの教職員がデータや数値に対する解釈の仕方・読み方など理解度が十分でないため、配布資料作成の際に、注意書き等を付し工夫をしているが、時に誤解などを招くこともあり、苦勞している。IR自体の学内理解と同時に、データや数値の取扱い方、分析結果の見方など併せて周知していくことが、IRそのものの業務を圧迫している感がある。</p>

情報通信工学研究科 修士卒です。自分は2020年に学長室に移動しIR部門は2年目です。東京工業大学のIR論、山形大学 IR実務担当者プログラムを受講させていただきました。とても勉強になりました。また、JAIRやMJIR学会、大学IRコンソーシアムに参加や発表、IDEを購読し、また、評価とIRのセミナーやシンポジウムを聴講してまいりました。数年前の日本政府の指針やセミナーなどでは、欧米の各大学で情報収集をしたIR業務の良いところを集めて提言しているような印象でした。最近の提言では、現実的な路線でのIR部門の業務に収斂されてきた印象でございます。具体的には、IRはヘルプではなく、サポートであること、また、IR部門が提出したデータが必ずしも執行部の意思決定に使われるわけではないということが、自分の実務でも実感で分かってまいりました。一方、先行していた大規模大学のIR部門では、現在、職務範囲が広くなりすぎていて苦慮しているようです。後発の大学からすると、そんなことまでIR部門がしているのか、また、IRのデータ分析にとどまらず、改善策の提言や、各事務部門の業務改善BPMにまで取り組まれている大学もあるようです。自分の個人的な意見になりますが、大学もジョブ型の業務になっていくと推測しています。そうしますと、僕が、本部に情報戦略センターを作ったときと同じように、前任者から引き継いでIR部門の立て直しをさせていただいたときには、まず、業務整理をして不要な仕事をカットしてスリムにいたしました。理事長、学長、副学長など執行部に、2020年度以降のIR部門の目的や職務分掌、職務範囲、業務内容、中長期計画を策定しました。まとめ 新しい部門、特に、IR部門は、業務の境目の決定が難しいこと、とすると守備範囲が広がってしまい、本来、やらなければならないIR部門の業務に手が回らなくなってしまうが、FTEで計算してみると分かりますが、したがって、自分の大学も含めて、ときどき、IR部門の守備範囲確認することが大切だと感じております。本学のIRでは、学長室 IR (Institutional Research) 推進チーム 職務分掌 1.目的 ・神田外語大学の運営上の意思決定および計画立案を支援する。 2.職務(概要) ・支援に必要な情報の収集・分析・提供・保管を行う。 3.職務(詳細) (1)情報収集 ①必要な情報がどのようなものか定義する。 ②各部署が保有している情報を集約する。 ③どこにも保有されていない情報を収集する。(2)情報分析 ①意思決定、計画立案者の依頼を受けて分析する。(なお、意向を先取りして、提案することはありません) ②意思決定、計画立案に有用なかたちで分析する。(研究ではない。) ③学外の関連情報と比較する(取り扱うのは学内情報に限定されない) (3)情報報告 ①意思決定、計画立案に寄与するかたちで報告する。(分析結果をサマリーと詳細に分ける) ②結果と解釈を分けて報告する。(分析結果の解釈を求められることがある) ③情報報告のサイクルをまわす。(依頼・分析・報告・意思決定が繰り返されるのが理想) (4)情報保管 ①大学IR業務に関わる情報を一元化する。 ②データ項目の定義を行う。 ③データ収集を行う。(大学基幹業務システム、LMS等から引用) ④データ整形(クレンジング、マージ)を行う。 ⑤必要に応じたデータアクセスを可能にする。 4.特記事項(重要なポイント) ・大学IR部門は、意思決定や計画立案までは行わない。(意思決定のための情報提供を目的としている) ・大学IR部門は、個別業務を支援するのではない。(個別業務のためのデータ提供が目的ではないため) 5.5 ・教学IRは行う。財務IRと研究IRまでは行わない。(執行部からの指示あり)

「内部質保証」と「情報公開」のためのIRという色合いが濃くなってきましたけれども、その実、ステークホルダーの欲する情報との乖離は大きいと感じますし、いち担当者(IRer)としては、大学内の組織や教員が主体的にRQを持って、IR室に分析を依頼してくれるくらいが、最も実用性があるのではないかと(消極的ではありますが)考えています。

特になし

良くも悪くも「IR」という魔法の言葉が、事あるごとに飛び飛び交ってしまう現状は否めない。本学においては、IR規程も定め、ようやく始動した感があるが、全教職員に浸透するまで、分析実績と情報共有と発信を継続していくことが、IR活動の更なる発展への近道であると感じて、活動を継続しています。

本学は毎年年度末に教学監査を行いPDCAサイクルを構築しつつ大学がバランス改革及び教学マネジメント改革を推進している。

IRは、今後より重要な取組みとなると思います。

IR体制については昨年12月にIR室に関する規程をつくり、新年度(2022年度)よりIR室を発足する予定である。本学は法学部だけの単科大学であり、各学年定員100人の小規模大学である。そのため、教職員数も少ないので、これまでIRの専門部を設けていなかった。これまでは、教務課を中心にデータの修習蓄積を行っているが、教職員間で情報を共有する体制はできていない。今後はIR室がこれらのデータの評価・活用を図ると共に、就職課等有している就職情報等もIR室で共有し、学生教育及び就職指導に活用する予定である、

すでに回答しているように、IRに関わる専門人材の確保が必要になっているものの、一端集積されているデータを分析してしまえば専任である必要性が薄くなるのではないかと考えられ、どのような形で確保するのがよいか迷っているというのが本音である。

特になし
IRが提唱されてから時間が経過し、教務システム等ベンターさんの対応も進んできました。IR部署に限らず、業務を担当している当該の部署でもかなりの分析をできる環境が整ってきているように思います。IRを部署ではなく、機能に着目して分析・評価したり政策誘導する動きも必要になるのではないのでしょうか。
本学は小規模大学であり、設置校ごとにIR組織を設けるのが難しい。地方小規模大学は、どこも本学と同じく人材・マンパワーが不足しており、自前でIRを行うのはなかなか難しいと思う。データの取り扱いの問題がクリアできるのであれば、複数大学のIRを担う中立的な組織を設置してIRを進めるような運用ができるとよいのではないかと思う。
大学運営にとって、IRは重要と感じるが、大手大学が実施している研究としてのIRには疑問を感じる。
IRは組織に応じて必要性や対象(教学・財務・教職員評価)が異なるはずなのに一律のモノとして扱われ、ツールの導入・予算化が先行して議論されることが多い印象を持っています。近年の"DX化"と同様に、(DB等)システムの導入では改善・解決には到達できないはずですが、業務改革などのコンテクストとは切り離されたり、教学など一部を対象を限定して扱われている一部の状況には危機感を感じています。
①教学マネジメント指針にて、教学マネジメントを支える基盤としてIRが取り上げられて以降、IRの役割は変化していると感じる。すなわち、専門家による高度な分析から、教学マネジメントを支える基礎となる情報の収集および提供というパラダイムシフトである。本学では、各部局に点在する様々なデータを集約・連携したデータウェアハウスの構築と、そのデータを意思決定に資するインテリジェンスへと変換して共有するBIツールの活用に注力し、教職員全員が自身の問題意識や仮説に沿ってデータに触れることができる環境構築に力を入れている。今後もこの方針を継続する予定である。②私立大学等改革総合支援事業タイプ1-②の評価項目「IR機能の強化」において「IRの他大学等への普及に向けた取組の実績がある」について最高得点に「他大学等への指導・助言等」を含んでいることには少し懐疑的である。教学マネジメントは、各大学が自らの理念を踏まえ、その責任において、それぞれの実情に合致した形で構築すべきものであると指針は明言しており、それを支える基盤であるIRも同様であると認識している。よって、他大学へ「他大学等への指導・助言等」つまりはコンサルティング的な動きをすることは必ずしも相手大学のIR機能の強化につながらず、仮に効果があったとしてもその範囲は限定的ではないかと考える。業界にIRを普及させているかや、業界全体のIR機能を高めているかを評価したいのであれば、「IRに関する外部研修会に講師として参加した実績がある」と対比する形で自大学が主体的にIRに関する知識・技能を習得するような教育プログラムなどの「研修会等を主催」していることまでにとどめておく方が適切ではないかと考える。
(ありません)
データの整備が追いついていないと感じています。そのため分析そのものに時間をかけることができていません。また基本の分析(可視化)もできていないまま、その都度発生する執行部からの要望に応じているといった状況です。IR室運営会議(教員・職員ともに正式な会議メンバー(ただし兼務等の発令なし))がありますが、いかに積極的に参加いただくかは課題です。
上記回答は現在のものとして、先日の全学会議で「教学IRセンター(仮称)」の設置が決まりました。それに合わせて、次年度以降は予算がつくことになりそうです。ようやく本学でも動き始めるといった感じです。
IR活動の機能性・有用性を向上させるためには教育現場(教員)と管理運営現場(職員)を連結する教職協働体制を確立していくことが重要と感じています。その一方で、教育にはデータ至上主義で割り切ることが難しい側面があるため、分析から得られたIR情報の学生教育への活用の仕方については現状を見極めながら検討していく必要があると考えています。
IR専従の事務職員を一昨年まで置いていたが、退職してしまいその後、補充がない。上層部がIRを力を入れるつもりなのか分からない。個人的な意見であるが、データ収集・分析は、個々の専門部署(会計課、人事課、学務課等)が行えばよく、単科大学では、IRセクションを設ける必要性はほとんど感じない。返って、責任が曖昧になり、専門部署がデータ収集・分析業務を放棄している面もある。個々のデータの詳しい定義や意味は、専門部署しか分からず、専従のIR担当が深く理解するのは、難しい。また、本学の現状で言えば、データ収集と整理で精一杯で、高度な統計学的な問題に直面することはほとんどなく、専従のIR担当を置く必要性は、感じない。
分析結果はある程度蓄積されているが、それを有効活用できていない。FD・SD等を通して、学内全体のデータリテラシーを底上げする必要があると強く感じる。
特にごさいません。

本学は開学して18年が経過した「若い大学」です。2016年度に学内委員会として編成した教学IR委員会なので、ハードとソフトとともに未成熟な部分が多いと思います。さらに、大学IR、あるいは教学IR自体が、日本において試行錯誤している分野であることもあり、担当事務職員として、数多くのことを深く悩んでいる最中です。本学は薬学系の単科大学であるため、総合大学よりは、各部・科によるIR業務、特に教育情報の収集業務に関するハードルは低いとは思いますが、全ての教職員の認識が合致していないことから、解決すべき課題の難易度は高いと思われます。本業務に関わって2年目の担当事務職員として回答させていただきます。

直面する問題に対し、IRは数値を使って客観的に分析することが求められていると感じます。しかし、分析において、その使われた数値にバイアスがかかっていないか、あるいはそもそものデータの集め方は？など、本当にそれを解析し経営課題に対処していくとなると、非常に難しい仕事であると認識しております。経験や勘に頼る部分との対立もあつたりしますが、そもそもの解析データに偏りがあることで、必ずしもIR情報が確実に有用であるとは言い切れず、経験や勘に続くもう一つの手段としてIRがあるように感じます。

本アンケートについては、回答担当者の一部私見が含まれております。

厳しい状況の中で、必要な組織であることは十分理解しているが、人員の配置が難しい。私立の大学としては教職員が兼務という形をとらざるを得ないところが難点である。

何年も学生調査を継続しているが、IRを始めた当初の新鮮味がなくなっている。委員から意見が出ることもなくなり、委員会が形骸化してしまっている。

まだまだIR活動自体が目的になっており、IR活動が本学の教育改革につながっていない状態です。

規模や組織体制等の状況により様々な体制、情報収集のあり方があるかと思しますので、本学の規模・組織体制においてどうあるべきかを検討するにあたっては、様々なバリエーションの事例を共有する機会をいただけるとありがたく存じます。

IRを用いた大学運営が必要だと思うが、教職員の関心があまりない。構築するために、専任の人材を確保する必要があるが、人件費や

組織運営上、どの組織にもIRは必須と考えます。何をもとに判断するのかを考えれば、IRの活用は当然かと思えます。これまで、大学の基幹部門においては、明白にIRとは意識せず、部門毎の分析業務を実施していたのではないかと思います。ただ、全学レベルで統合的にIRをまとめようとする、途端にデータや設備、予算管理といった障壁が生まれ、この障壁を突破するにはIR担当者の個人力に依存する形となり、IRが名ばかりの形骸化した組織になっているような気がしています。やはり経営層のIR活用への意識がないと、IRの浸透は難しいと考えます。集中的にIRを管理するのであれば、IR組織を経営に近い箇所に設置するのが得策と思えます。

本アンケート調査を、学内でも活用していきたいと思しますので、集計結果をフィードバック、もしくは公開していただくと幸いです。

本校は2020年に開学したばかりで、現在IR組織について検討中です。今後、具体的な組織編制をするために、差し支えなければIRに関する資料等を頂けると幸いです。

特になし

IR組織の設置の際の参考とさせていただきたいので、結果についてのフィードバックをお願いできればと考えます。

問9aについて、内容に応じて無記名・記名を使い分ける予定です。

以下はあくまで担当者の個人的な意見である。本学では既存のIR室とは別に教学マネジメントの体制を整えるべく「教育の質保証支援室」が設置されたが、新設部署が全学的な教学データを取扱えるような権限をもつことは一朝一夕には難しく、学内のデータの取り扱いに関する規定を整えたり、関連部署・委員会との連携や調整を試みたりする必要がある。場合によっては業務負担を新たに依頼せねばならない。全学的なアンケート体制の見直しやこれにともなう諸手続きの改訂などに取り組んでいるが、縦割り組織の大学においてスムーズに話が進むわけではなく、中長期的に、段階的に、教学IRの体制を整える難しさを日々感じている。

専従人材には、教員および職員の両方が必要だと思います。また、人員を投入しない体制であれば、BIツールや分析ソフトの購入またはそのシステムを担っているコンソーシアム等への加入などにより、継続的に取り扱える環境整備が必要だと思います。

本アンケート調査は自己点検IR委員会が回答しました。自己点検IR委員会では、「本学の教学体制の改善サイクルを推進するため、学内各部署で作成された教学情報を収集・活用することに加え、学生調査や外部試験など学生の能力成長に関わる情報の収集・分析を行い、教学に関する自己点検・評価の際に学修成果の客観的情報を提供する活動」を教学IR活動と定義しており、IRの多くの機能を分散して複数の部署が担当していることから、教学IRの担当組織である本委員会の立場で回答させていただきました。そのため設問においては他部署の業務として該当する機能も複数ありましたが、回答していないものがあります。ご了承くださいませようお願いいたします。

現在、IRの実施体制や役割について検討しているところであり、他大学の情報を共有していただけるとありがたいです。

大規模大学の例をよく聞くことがあるが、小規模な大学でのIRの在り方について、どうしてよいのかわからない部分がある。

IRに関して質問項目が該当しないものが多く、回答が信頼できません。不適切な回答であるので、全項目を使わないことを強く希望します。

IRに関する組織は、大学の規模や力の入れ具合でかなり多様だと最近の研修を受けていて思います。本学は、大学教員であり統計等も少しわかる回答者が分析等を中心に行いつつ、協力的な組織メンバーがいるため、内部質保証のために実践や施策改善に向けて動けることがあります。それでも動かすにくい内容・部署などはあります。EBPやEBEなどが叫ばれて長いですが、当たり前の様にもっと学内に浸透する形で貢献していけたらと思います。

日常の教育研究の改善に必須となるデータの収集・整理・分析は、それぞれの担当部署で行うのが適当であると考えており、全学的なIRセンターでは、大学を取り巻く環境（人口、国の政策、地域産業、教育）、大学の持続性に係る人・物・金などの資源、教職員・学生の意識などを中心とした情報の収集・整理・分析に重点を置きたいと考えている。

IRの全学組織として、経営情報分析室がありますが、教学IR機能をもつ組織として、教育企画室もあり、今回の回答にあたっては、問4までは経営情報分析室の情報のみを入力し、問5以降は経営情報分析室及び教育企画室の両方に確認した内容を入力していますこと、ご承知おきください。

全学的なIRに関する理解が、十分に浸透していない側面があるため、IRへの取り組みが期待するほど進展していない。

小規模大学の場合、IR業務が個人対個人になり検証結果や内容を組織として蓄積し、共有することが難しい状況にあります。それによって改善策が検討されず組織的に動けない場合があります。（検証・分析して終わり）